



本実証実験は新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、関係団体と協議の上、延期することといたしました。実施時期が確定次第、改めてお知らせいたします。(9/14)

令和3年9月2日
経済局産業連携推進課
相鉄バス株式会社
国立大学法人群馬大学
日本モビリティ株式会社



I-TOP 横浜「路線バス自動運転プロジェクト」

～神奈川県内で初めて駅に接続する自動運転バスの営業運行を実施～

横浜市と相鉄バス(株)、群馬大学、日本モビリティ(株)は、IoT等による新ビジネス創出を促進する「I-TOP 横浜」の取組として、自動運転技術による持続可能なモビリティサービスの実現を目指し、「路線バス自動運転プロジェクト」を推進しています。

本プロジェクトの取組の一環として、令和3年9月20日(月曜日・祝日)から9月24日(金曜日)の5日間、三俣川駅から横浜市の大規模団地再生モデル構築事業の対象団地の一つである左近山団地を結ぶ路線バスの一部区間において、通常営業の路線バスを増便し営業運行にて自動運転バスによる実証実験を行います。

今後も段階的な実証実験を重ね、自動運転に対する社会受容性の向上を図るとともに、より安全な自動運転社会を実現するべく、高い安全性と安定した操作性を追及し、自動運転「レベル4」による営業運行の早期実現を目指します。



試験走行中のバス



自動運転走行中の運転士の様子

1. 実証実験の概要

実施期間	令和3年9月20日(月・祝)～9月24日(金)(5日間) ※緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期間延長などにより、延期または中止することがあります。
コース	相鉄線 三俣川駅南口(1番乗り場)～左近山第5(往復約9kmを最高時速30kmで走行) ※区間内にある22箇所のバス停すべてに停車
自動運転	運転席に運転士を配置した自動運転「レベル2」 運転士は座席に着座し、一部区間は手動に切り替えて操作
乗車定員	各便25人(先着順となり、定員を超える場合は乗車できません)
運行本数	1日あたり3往復(三俣川駅南口発3便、左近山第5発3便) ※実証実験を行う区間は、平日ピーク時(1時間)に30本、1日に340本の路線バスを運行
ポイント	・令和3年3月に実施した実証実験の区間を延伸して行うもの ・神奈川県内では初めて、駅に接続する自動運転バスの実証実験

2. 使用車両

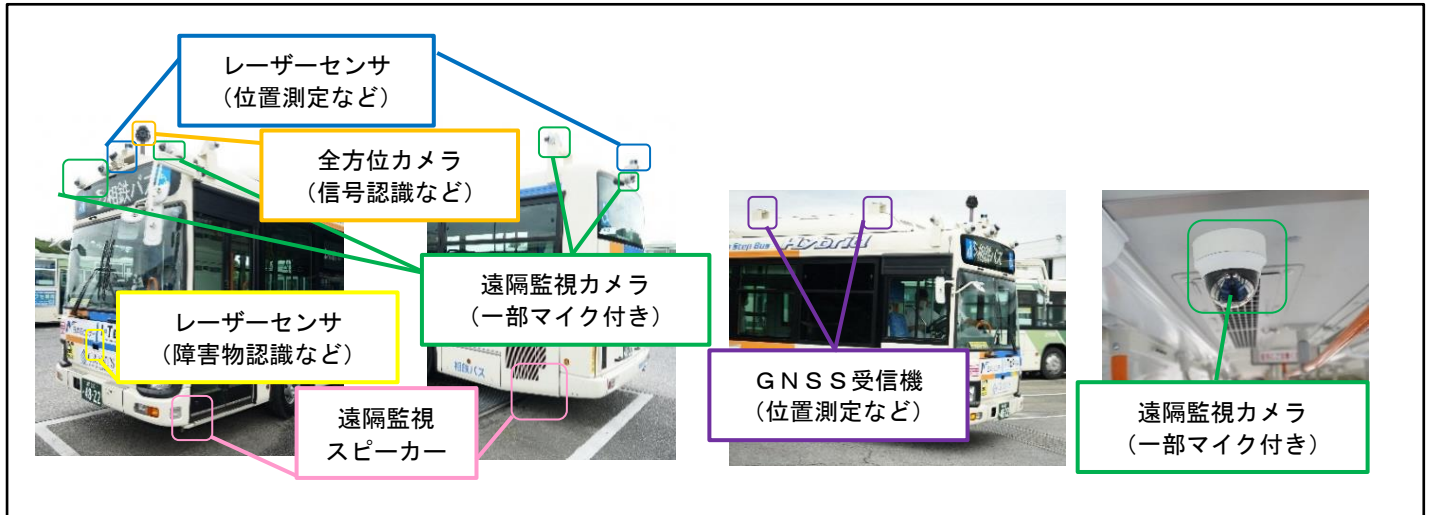
車 両 : 日野ブルーリボン ハイブリッド 2SG-HL2ANBP 改

所 有 者 : 相鉄バス(株)

乗車定員 : 27人 (自動運転時、旅客 25人、運転士 1人、保安要員 1人)。車検上は 77人

寸 法 : 1,055cm (L) 248cm (W) 337cm (H)

【自動運転バスを支えるシステム】



3. 運行スケジュールとダイヤ

運行予定日: 令和3年9月20日(月曜日→祝日)～9月24日(金曜日)

二俣川駅南口 1番乗り場発	左近山第5 発
10:13	11:12
12:01	12:56
14:25	15:24

路線バス自動運転プロジェクトとは

横浜市と相鉄バス(株)、群馬大学、日本モビリティ(株)は、IoT 等による新ビジネス創出を促進する「I-TOP 横浜」の取組として、自動運転技術による持続可能なモビリティサービスの実現を目指し、「路線バス自動運転プロジェクト」を実施しています。

郊外部における交通ネットワークの維持や、人口減少に伴う労働力不足への対応を目的に、自動運転バスによる地域交通課題の解決を目指します。



次頁あり

自動運転システムとは

自動車の車両制御システムの一つで、運転に必要な「認知・判断・操作」の一部あるいは全部を自動で実施可能な機能を有するシステムの総称です。SAE（米国自動車技術会）によってレベル0（手動運転）からレベル5までに区分される自動運転の国際的な基準があります。

（参考）自動運転レベル表

レベル	概要	対応主体
1 運転支援	システムが前後（アクセルやブレーキ）、左右（ハンドル操作）のいずれかの車両制御にかかる監視・対応を行う	運転者
2 部分運転自動化	システムが前後（アクセルやブレーキ）、左右（ハンドル操作）の両方の車両制御にかかる監視・対応を行う	運転者
3 条件付き運転自動化	限定領域内で、システムが全ての運転を実施。システムでの運転困難な場合は運転者が対応する	システム （一部運転者）
4 高度運転自動化	限定領域内で、システムが全ての運転を実施する	システム
5 完全運転自動化	領域は限定されず、システムが全ての運転を実施する	システム

相鉄バスの新型コロナウイルス感染予防の主な取組

- ・乗務員の出勤前の検温、手洗い、うがいの励行及びマスクの着用
- ・バス車内の換気扇・デフロスター（外気導入）を使用、窓を開けての運行
- ・全バス車両に抗ウイルス・抗菌施工及び手すり、吊り革などの定期的な消毒

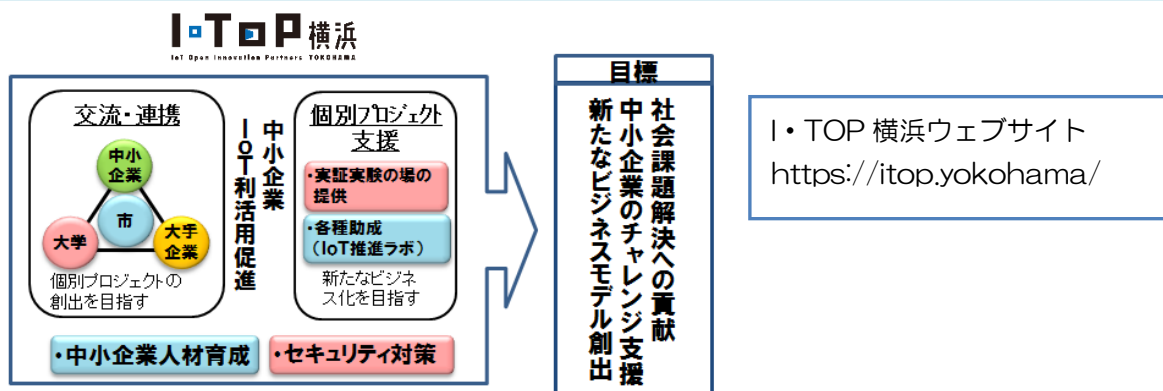
詳細は相鉄グループウェブサイトをご覧ください

URL:<https://www.sotetsu.co.jp/news/bus/info-bus-436-2020-02-26/>

参考

【I・TOP 横浜（IoT オープンイノベーション・パートナーズ）とは】

横浜経済の強みである「ものづくり・IT産業の集積」を活かし、IoT等（IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等）を活用したビジネス創出に向けた、交流・連携、プロジェクト推進、人材育成等を包括的に進めていくプラットフォームです。これらの取組から個別プロジェクトを立ち上げ、「新たなビジネスモデル創出」、「中小企業のチャレンジ支援」、「社会課題解決への貢献」を目標としています。



お問合せ先

経済局産業連携推進課 担当課長 佐藤 慎一 Tel : 045-671-3591

※本件は、相鉄バス(株)、群馬大学、日本モビリティ(株)と同時発表しています。

※本件は、横浜経済記者クラブにも同時発表しています。